

# 農業と科学

1983  
12

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD

## 海外農産物の 需給動向について

農林水産省大臣官房調査課

田村 修一

### 1. 概観

前年度(1982/83年度)から本年度(1983/84年度)にかけての、海外農産物の需給動向をみると、穀物(小麦および飼料穀物)については、前年度はソ連が4年連続の不作、オーストラリアも生産が半減したものの、アメリカ、中国が史上最高の豊作となったほか、カナダ、東・西ヨーロッパ等が増産となったことなどから、需給は緩和基調で推移した。本年度については、ソ連の生産が5年ぶりに回復するとみられているものの、アメリカの生産が、作付削減計画の実施や熱波の影響等により、大きく減少すると見込まれていることなどから、需給は総じて引き締まったものになるとみられる。

また、大豆については、前年度にはアメリカが史上第2位の豊作となったほか、主要生産国でも生産が増加したことなどから需給は穀物と同様緩和基調で推移した。

本年度については、アメリカ以外の主要生産国では、増産が見込まれているものの、アメリカが熱波の影響等により、大きく減産するとみられていることなどから、需給は引き締まるとみられる。

主要品目の需給動向は、次のとおりである。

### 2. 小麦

(生産は前年を上回り、史上最高)

USDA(アメリカ農務省)によれば、本年度の世界の小麦生産は、アメリカは減産だがオーストラリアの豊作等で、世界全体では前年度を1.0%上回る4億7,940万トンと、史上最高の生産になると見込まれている。

これを国別にみると、アメリカは、需給改善による価格回復を目的として、作付制限計画およびそれに乗せ

したPIK計画(減反分に対する生産現物での補償)を実施したことによる、作付面積の減少等により、史上最高の豊作となった前年度を14.3%下回ったとみられている。また、ソ連についても天候不順の影響などから、不作であった前年を更に1.2%下回り、5年連続の不作になったとみられる。

一方、オーストラリア、中国、インドは、作付面積の増加や天候に恵まれたことなどから、史上最高の豊作となり、カナダも史上最高となった前年度と、ほぼ同水準になるとみられている。

(需給は引き続き安定)

本年度の世界の小麦消費についてみると、USDAに

表-1 アメリカの小麦需給(単位:100万ha, トン, 100万トン)

年 度 (6-5月)	作付面積	収穫面積	ha当たり 取 量	供 給			需 要			期末在庫
				期初在庫	生 産	計	国内消費	輸 出	計	
1981/82	36.0	32.8	2.32	26.9	76.2	103.2	23.2	48.3	71.5	31.7
1982/83	35.3	31.9	2.39	31.7	76.4	108.3	25.3	41.1	66.4	41.9
1983/84 (予 測)	31.0	24.7	2.65	41.9	65.5	107.6	27.9	38.1	66.0	41.6

よれば、飼料用消費は減少するとみられるものの、消費の8割以上を占める食料用消費が、中国での高い伸びなどから増加するとみられ、世界全体の消費は、1.9%増の4億7,150万トンと見込まれている。

このように、消費がわずかに増加するとみられる一方生産が史上最高になるとみられることから、在庫率は前

## 本号の内容

§ 海外農産物の需給動向について……………(1)

農林水産省官房調査課 田村修一

§ 飼料作物の連作障害と  
その対策について……………(3)

農林水産省草地試験場 飯田克実  
生理第三研究室長

§ 水田土壌中の無機化窒素はどのくらいあり  
それはどんな動きをしているだろう(その3)……………(5)

農林水産省北陸農業試験場 山室成一

§ '83年度本誌既刊総目次……………(7)

(注) USDA10月13日発表による。

年を上回る22%になると見込まれており、需給は引き続き安定的に推移するとみられる。

### 3. 飼料穀物

(生産はアメリカの熱波等によりかなり減少)

本年度の世界の飼料穀物生産は、USDAによれば、ソ連等の生産の回復はあるものの、アメリカの大減産等から、世界全体では、前年度を12.6%下回る6億8,110万トンと見込まれている。

これを国別にみると、ソ連は、作付面積の増加に加え天候もおおむね順調に推移していることから、生産は回復し、前年度を2割近く上回ると見通される。このほか前年度干ばつに見舞われたオーストラリアは倍増し、中国も増産と見込まれている。

しかし、最大の生産国であるアメリカでは、PIK計画の実施等から、作付面積が大きく減少したのに加え、7月中旬以降、中西部コーンベルト地帯とその周辺が熱波に見舞われ、その後霜害等もあって作柄が悪化し、前年度に比べ45.4%減という大減産になるとみられる。また、カナダも作付面積の減少等から大きく減少し、ヨーロッパも干ばつ気味の天候から減産が見込まれている。

(消費が生産を上回り需給は引き締まる)

USDAによると、本年度の世界の飼料穀物の消費は最大の消費国アメリカでは、畜産生産の低迷等から減少するとみられているが、ソ連が畜産生産の増加等から、増加すると見込まれ、中国も引き続き増加するとみられるので、世界全体の消費は前年度を1.3%上回る7億5,750万トンと見込まれている。

このように、消費が生産を上回ることから、在庫率は前年度(20%)を大きく下回る9%程度になると見込まれ需給は引き締まるものとみられる。

### 4. 大豆

(生産はアメリカの熱波等により大きく減少)

(注2)  
本年度の大豆生産は、オイルワールドによれば、世界の生産の約6割を占めるアメリカが、大減産とみられていること等から、前年度を17.4%下回る7,780万トンと見込まれている。

これを国別にみると、アメリカでは、PIK計画により小麦、飼料穀物の作付削減がなされた土地には、大豆の作付けが認められないこと等から、大豆作付面積がかなり減少したとみられるのに加え、イリノイ、ミズリー、アイオワ州等、大豆の主産地が7月中旬以降熱波に襲われたことなどから、作柄が悪化し、生産は史上第2位の豊作となった前年度を32.0%下回るとみられる。

表一2 アメリカの飼料穀物需給 (単位:100万ha, トン, 100万トン)

年 度	作付面積	収穫面積	ha当たり 取 量	供 給			需 要			期末在庫
				期初在庫	生 産	計	国内消費	輸 出	計	
1981/82	50.0	43.3	5.74	34.6	248.5	283.4	153.7	58.6	212.3	71.1
1982/83	49.3	43.3	5.89	71.1	255.0	326.4	166.3	53.3	219.6	106.8
1983/84 (予 測)	41.5	32.7	4.25	106.8	138.9	246.0	155.1	56.9	212.0	33.8

その他の主産国中国、インドが増産とみられており、ブラジル、アルゼンチンは、作付け時まで大豆価格が堅調に推移すれば、作付増から生産の増加が見込まれる。(消費が生産を上回り需給は引き締まる)

本年度の世界の大豆消費についてみると、オイルワールドによれば、大豆油の消費はアメリカ、ソ連等の減少から減少が見込まれ、また、飼料用として大豆かす消費も、根強い需要があるソ連等で増加が見込まれるものの、アメリカ、ヨーロッパ等が減少するとみられることから、減少が見込まれている。以上から、世界全体の大豆消費は、前年度を5.2%下回る8,590万トンとみられている。

このように、消費は減少が見込まれるが、生産が大きく減少するとみられるので、消費が生産を上回り、在庫率は前年度(21%)を大きく下回る12%と見込まれる。

また世界の在庫量の半分以上を占めるアメリカの在庫量が、7割程度減少するとみられるので、今後の南半球の生産動向にもよるが、需給は引き締まるとみられる。

表一3 アメリカの大豆需給(単位:100万ha, トン, 100万トン)

年 度 (9~8月)	作付面積	収穫面積	ha当たり 取 量	供 給			需 要			期末在庫
				期初在庫	生 産	計	国内消費	輸 出	計	
1981/82	27.4	26.9	2.03	8.7	54.4	63.1	30.6	25.3	55.8	7.2
1982/83	28.9	28.2	2.14	7.2	60.7	67.9	32.8	20.1	57.4	10.5
1983/84 (予 測)	25.6	24.8	1.66	10.5	41.3	51.8	29.0	19.6	48.6	3.3

(注2) オイルワールド、9月30日号(生産のみ10月14日号)による。